

## ユニオン・パシフィック鉄道、輸送能力を拡大し需要に応える

### 目次:

- 2 ページ: 米国トウモロコシ最新情報
- 3 ページ: ロシア、食料輸入を禁止
- P.4: 世界の金融市場

**昨**冬、広い地域で気温が氷点下になり大雪が降ったため鉄道輸送に著しい遅れが出たことから、北部の州の穀物の出荷は、今年の冬と比較すると大幅に遅れました。気温が上昇しても、鉄道会社は大量の積み遅れや、増える一方の様々なコモディティ品を輸送しなければならず、その一方、昨年が続く記録的な収穫にも対応しなければなりませんでした。

先月、ユニオン・パシフィック鉄道の穀物・穀物製品担当副社長補佐である Hasan Hyder 氏は活況な穀物市場に対応するための同社の事業拡張についてアメリカ穀物協会の幹部と協議しました。

### 次の豊作に備えて

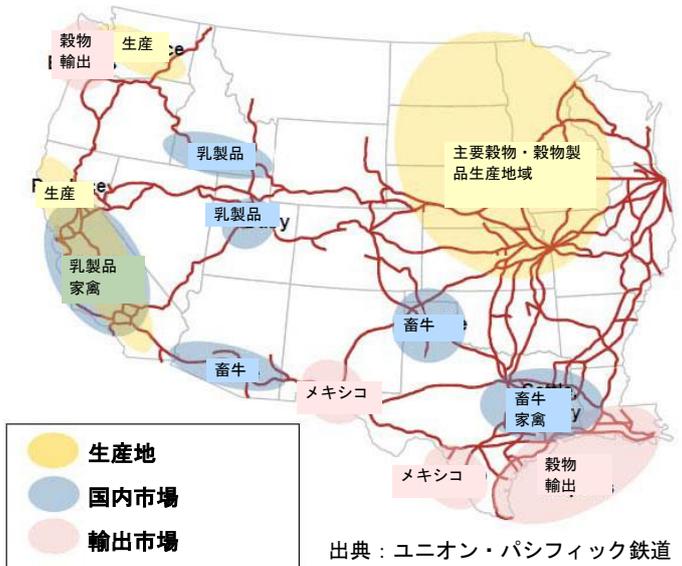
ユニオン・パシフィック鉄道は、ルイジアナからカリフォルニア、ミネソタ、ワシントンと、米国西部の大部分の地域において運行されています。同社は太平洋岸北西地域とメキシコ湾岸間の主要輸出港の穀物輸送に深く関与しています。ユニオン・パシフィック社が 2013 年輸送した全農産物の 68 パーセントは穀物または穀物製品でした。

シカゴ地域では昨冬悪天候に見舞われ、そのうえ米国の穀物出荷量が増加したことで遅延が生じたことから、ユニオン・パシフィック社は、今秋の 2014/2015 穀物年度に備えて専用貨車を増やし、需要に応えるための取り組みを行なってきました。例えば、2013 年には 15,000 台だった穀物用有蓋ホッパー貨車を今年には既に 16,600 台に増設しています。

「この数年輸出ターミナル自体が大規模な設備投資を行ってきたので、我々もネットワークを充実させています」と Hyder 氏。「今秋のことを言えば、輸出ターミナルまでの輸送についての当社側の備えは万全と考えています」

### 設備投資は記録を更新

穀物など業界からの取り扱い能力への需要が拡大する中、米国の鉄道会社にとって設備投資が優先事項の一つになってきました。過去 10 年、業界全体で、設備とその保守費用として鉄道会社は 2,100 億ドルを投資してきました。ユニオン・パシフィック社だけでも 2014 年は、同社としては過去最高の 41 億ドルの投資を計画しています。



3 ページ、「鉄道会社の設備投資」をご覧ください。

## 大豊作が期待される米国トウモロコシ収穫始まる

米国のトウモロコシの収穫が始まり、全国の農家は豊作への対応に追われています。生育期である夏期が理想的な天候であったことから、記録的な収穫が期待されています。

### 遅いスタート転じて堅調な結果

低温多雨の春の気候によって多くの地域で作付が遅れた米国産トウモロコシは、その遅れを取り戻しました。夏期を通してほぼ好天に恵まれたために作物は急速に成長し、大事な受粉を丁度良い時期に始めることができました。

「全国的に素晴らしい年になりそうです」とオハイオ州の農家の John Linder 氏は言います。「弟と一緒にいくつかの州に行ってみましたが、トウモロコシには目を見張るばかりでした。豊作年となる地域が多そうです」

多くの地域で単収推定値は予想を上回っています。米国農業省によると、現在の米国産トウモロコシ総収穫高は、3億5,600万メートルトン、1ヘクタール当たりの平均単収は10.5トンと推定されています。

「この圃場の[計画]単収は1ヘクタール当たり16トン以上です。我々の平均生産高は11トンを少し上回っています。過去の豊作の年は13トンでした」。イリノイ州の農家の Paul Jeschke 氏はそう言います。「おそらく16トンは現実的には高すぎる単収でしょうし、それを期待することはありませんが、通常よりはるかに高い単収を得られる可能性はあります」

### 2014/2015 期の高品質トウモロコシ

2014/2015 期の米国産トウモロコシはマイコトキシンのレベルが低く、高い品質も期待できます。害虫圧力がわずかだったことが主な理由です。トウモロコシ穀粒に害虫被害が起こると、マイクロトキシンをばらばらさせるカビを発生させる原因になります。無傷な生育と効果的な害虫駆除で被害を最小限にします。

「2012年のひどい干ばつにより起こった小さな問題を除けば、この地域でマイコトキシンが問題となったことはありません」と Jeschke 氏は言います。「今年は優れた品質が期待され、我々の地域にマイコトキシンの問題はほとんど存在しないと考えています」

複数の予測によると、2014/2015 期の米国産トウモロコシは大豊作となりそうです。好天と低マイコトキシンレベルのおかげで、高品質の米国産トウモロコシが量産されようとしています。◆

詳しくは、下記リンクのビデオをご覧ください。

[https://www.youtube.com/watch?v=pAou\\_yuhT4A&list=UUagF3P0a0yT-hvr4nwBUoQ](https://www.youtube.com/watch?v=pAou_yuhT4A&list=UUagF3P0a0yT-hvr4nwBUoQ)

## 鉄道会社の設備投資 ... 1 ページの続き

この投資の42パーセントはユニオン・パシフィック社の輸送能力増強に向けられています。これには新たな機関車や自社所有の車両、関連機器、商業施設などの増設があります。つまり、2015年と2016年には229台の新しい機関車と車両が増備されるということです。

2013/2014 市場年度は天候の影響を受け取扱量も増加したため困難の多い年となりましたが、ユニオン・パシフィック社は、新穀物年度の需要に応えるための準備に余念がありません。大規模な設備投資により、同社は業界のリーダーとしての地位を確保し、顧客の増大するニーズに応えます。◆

詳しくは、アメリカ穀物協会の Facebook、Twitter および YouTube の各サイトをご覧ください。

[Facebook](#)



[Twitter @USGC](#)



[YouTube](#)

## ロシアの食料禁輸、影響は輸出ではなく消費者に

8月、ロシアの政府高官は米国やEU、ノルウェー、カナダ、オーストラリアの農産物の輸入を多数禁止または制限するロシアの意向を明らかにしました。これは、ロシアのウクライナへの介入に対抗してこれらの国々が課したロシアの銀行やエネルギー、防衛関連産業への制裁に対する報復措置として実行されました。その反面、ロシアは、中東やアフリカ、アジア諸国が輸入する穀物の輸出停止は計画していません。この禁輸によってロシア国内では予想よりも大きなインフレが起こっており食品価格も高騰しています。



出典: Kirill Kudryavtsev/AFP

### 食品価格の高騰

農産物のうち特に肉や魚、乳製品、果物、野菜などの輸入をロシアが禁止・制限して1年になります。

この禁輸は、ロシアで8月にインフレが悪化したことで、すでに消費者にその影響が出てきています。物価は昨年よりも7.6パーセント上昇し、同国のインフレターゲットの5パーセントを超過しています。

ブルームバーグ誌の記事によると、バンク・オブ・アメリカのロシア担当チーフエコノミスト、Vladimir Osakovskiy氏は次のように語っています。「価格の高騰の主因は先頃の

輸入禁止の影響が予想よりも大きかったことです。今年中にもう50ベースポイントの上昇が予想され警戒を要します。ただし、9月に何らかの動きがある可能性が高まっており、今後のインフレ動向により状況は変化すると思われます」

### 黒海地域は穀物輸出を継続

ロシア政府高官は、米国およびEUからの様々な農産物の輸入禁止がロシアの穀物輸出に影響を及ぼすことはないとも発表しています。2014/2015市場年度では、穀物の輸出は昨年度の約2,800万メートルトンを上回ると考えられます。

「制裁により根本的な変化が起こると思いません」と、マッコーリー・グループのアナリスト、Christopher Gadd氏はロイターに語っています。「ロシアは輸出市場では依然競争力があり、生産高は予想を上回ると考えられます」

黒海地域産の穀物の価格、特に小麦の価格は、8月、ウクライナのクリミア近辺で戦闘が続いているため高止まりしています。とはいえ、ロシアとウクライナの両指導者が紛争緩和に向けて措置を講じる合意に至ったため、このところ穀物価格は3週間ぶりに低い価格まで下落しました。

短期的に見ると、ロシアの食料輸入禁止がロシアの食品価格に及ぼす影響は予想を既に上回り、インフレ率は先月上昇しました。ロシアは現在もなお輸出超過を期待していることから、禁輸によってロシアが穀物取引に参加しなくなるということはありません。ただし、長期にわたる禁輸の影響はまだ確認されておらず、このように貿易を阻害する政策の真の影響を知るには時間がかかると考えられます。◆

詳しくは、アメリカ穀物協会の Facebook、Twitter および YouTube の各サイトをご覧ください。

[Facebook](#)

• [Twitter @USGC](#)

• [YouTube](#)

## 穀物コモディティ品を見る世界の金融市場、変化を期待

この10年間の推移から推測すると、来年も引き続き、穀物コモディティ品のための資金調達はやや容易であると考えられます。依然、流動性は高く金利は低いことから、金融リスクも低くなっています。

「過去10年間、世界的に膨大な流動性がありました」とCoBankの情報交換部門、シニアディレクターのTerry Barr氏は言います。「各中央銀行は金融市場に多額の資金を投入しました。この10年間は金利がゼロに近く全世界的に中央銀行が極めて協動的だった非常に特殊な期間でした」

### コモディティ品の供給量は引き続き増加する

過去数年の特徴として、穀物コモディティ品全ての供給量が大きく増加したということも挙げられます。これは生産国での生産が拡大したためです。米国を例にとると、トウモロコシの収穫では2008年から3度記録を更新し、今年もまた新記録を達成する見込みです。

2013/2014年度米国トウモロコシ市場のトウモロコシ収穫高で示されるように、供給量の増加はコモディティ品の価格下落の要因となります。価格は2013年に30パーセント以上下落し、これに加えて今年も20パーセント下落しています。この傾向は、豊富な資金力と相まって、今後8~12ヶ月の穀物輸入コストが低くなることを示唆しています。

### トウモロコシ

#### 直近価格 & トウモロコシチャート

トウモロコシのコモディティ品先物終値



出典: NASDAQ

### 移行する市場

将来を見据えると、市場は異例に長期の高流動性・低金利状態から正常化に向かっているため資本獲得競争が増すことが予想されます。

このような正常化により金利が上昇すると、資金調達リスクもコストと共に上昇することになります。それでも、こうしたコストの上昇がコモディティ品供給量の増加による全体の価格の低下を上回るとは考えられません。

「こうしたコモディティ品市場については一旦移行期間に入ってしまうと、コストの上昇が進むと思われます。しかし、もちろん穀物や石油、食料の供給価格が低下するため輸入者が得られる利益を打ち消してしまうほどの影響があるとは思いません」とBarr氏は言います。

この数年間と同様、今年は金融緩和と低金利で定義される年となりそうです。来年以降、市場は現在の異常に流動性が高く金利が低い状況から脱却し通常の状態となり、資本市場でも競争が激しくなりそうです。それでも、作物供給量が増加しているため価格は低く抑えられ、長期的にはコモディティ品全体の価格への影響は小さいと思われます。◆

詳しくは、アメリカ穀物協会のFacebook、TwitterおよびYouTubeの各サイトをご覧ください。

[Facebook](#)

• [Twitter @USGC](#)

• [YouTube](#)